

区名	実施時間	主会場	参加人員	訓練内容	特記事項	安否確認訓練について	避難所開設訓練について	自主防災会訓練について
南割区	8:00 ～ 9:20	■南割いきいき交流センター ■望仙いきいき交流センター ■横前いきいき交流センター ■南割第三いきいき交流センター	198	①安否確認 ②本部設置訓練 ③避難所開設訓練、ファーストミッションボックス運用訓練 ④アルファ米配布訓練 ⑤土嚢作成		■家族台帳を忘れた班長があり、取りにいくなどして時間がかかった。実際の災害時にも起こりうるので、隣組用の安否確認票に世帯主と世帯員数を入れた用紙を避難所に置いておくなどの対応も必要なのでは。 ■組数が多く、人数の集計に時間がかかった。 ■記載や集計がしやすいように、例示の記載がある様式を事前に配布しておく方がよい。 ■常会毎に集計したが、自治組合毎の集計の方がよい。 ■災害時安否確認マニュアルを4月に自治会長へ配るようにした方がよい。 ■本部への報告は2名で移動すること。	■ファーストミッションボックス(FMB)を使った解説訓練を各避難所毎に実施。全体で行うより、このように少人数にした方がよい。 ■毎年やっているのを徐々に浸透してきている。 ■最初にどの書類を見たか良いかが分かりにくいので、分かりやすくした方がよい。 ■第3は第1避難場所から第二避難所が遠いため、FMBの訓練を行う時間があまりなかった。 ■要支援者名簿と実際の違いが見られた。⇒要支援者名簿は参考としてとらえ、普段からの近所づきあいから情報を更新して欲しい。 ■FMBでの開設訓練までは行えているが、その後の避難者を入れての訓練までは出来ていないので、今後の課題である。	■土のう15袋を入れ替えた。まだ、古い袋の物が50袋くらいある。砂の量も多いので対応が必要。
中割区	7:30 ～ 10:10	■農業担い手センター至誠館	95	①安否確認訓練 ②消火器訓練・消火栓訓練 ③負傷者救護応急訓練(AED取扱訓練) ④発電機・投光機取扱訓練 ⑤リヤカーによる避難訓練 ⑥炊き出し訓練 ⑦土のう作り ⑧浄水器使用訓練		■準備をしっかりとあったため、短時間で確認ができた。 ■各自治会への「家族台帳」や「安否確認票」などの配布が遅くなってしまう、もっと早くやるべきだった。	■概ね予定通り進めることができた。	■暑い最中なので、「外用」の扇風機2台(個人所有)を用意してやってみた。 ■テントを二張り立てたが、猛暑の中、屋外での訓練は厳しい。 ■ここ数年実施できなかった「負傷者救護応急訓練」として「AED取扱訓練」を消防団の方を講師に行った。多数の参加があり、特に女性の参加が目立った。消防団より詳しく丁寧に操作方法や救護方法を教えていただき、それに対する質問も積極的に出て、とても充実した講習となった。最新の救護の仕方を学ぶ、貴重な機会だった。次年度は「止血訓練」などを行ったらどうか。 至誠館の入り口にある「AED」も消防団の方に確認してもらった。 ■初期消火訓練では、消火器の中身を「水」に入れ替えて実施した。中身が泡でないで、その後の片付けが簡単だった。 ■倉庫に賞味期限の古い保存水などがかなり残っており、片付け、整理した。 ■アルファ米の炊き出しのデモを担当の部が行い、現物は(個袋)配布し、各家庭で試してみるようにした。 ■炎天下の中での土嚢袋の入れ替えは大変だったが、短時間で行うことができた。 ■簡易トイレ、携帯トイレ、テントの展示を行った。簡易トイレはこれから購入予定。 ■担当役員の中にコロナ感染で当日参加できない方が出た。不測の事態への備えが大事だ。代役の方に動いてもらった。 ■大きな課題として地区の集会所(至誠館)が耐震構造でなく、地震の際に避難所として使えないので、今後の至誠館のあり方について検討委員会を本年度立ち上げている。
北割二区	9:30 ～ 12:00	■赤穂小学校グラウンド ■赤穂小学校体育館	160	①安否確認訓練 ②炊き出し訓練(②以下、メイン会場訓練) ③初期消火訓練 ④土のう訓練 ⑤応急救護訓練 ⑥応急危険度判定訓練・避難所開設訓練 ⑦ライフライン復旧訓練 ⑧ドローン連携訓練	■北割二区がメイン会場となったため、正副自治会長・隣組長・各種部会並びに団体が参加し、総合防災訓練を行った。 ■市作成の広報チラシと同時に自治会長・隣組組長を通じて各家庭へ参加を促した。	■本年度は正副自治会長・隣組組長がメイン会場に集合したため、前日に安否確認票を記載集計した。次年度からは当日の回収報告とする。	■メイン会場訓練の担当地区のため時間的制限があり、自治会独自の訓練ができなかった。次年度は今年度の訓練を基に充実した訓練が開催されると期待している。	■メイン会場にて様々な訓練が体験できた。次年度は充実した訓練が開催できると期待している。
北割一区	9:00 ～ 11:00	■各自治組合集会所 ■長寿荘 ■五十鈴神社境内	43	①安否確認訓練 ②避難所開設訓練、発電機作動訓練 ③仮設トイレ組立訓練 ④非常食炊き出し・配膳訓練 ⑤初期消火訓練(水消火器・消火栓) ⑥簡易担架訓練	■昨年に引き続き2箇所にて区自主防災訓練を行った。 ■今年度も区の自治組合をA・Bと2班に分けたが、昨年と場所や内容を交代して行ったため、区全体としては継続的に多様な体験ができる内容の濃い訓練となった。	■自治組合により組数が大きく違うため、報告までの時間に差あり、全体を把握するまでに約1時間かかった。 ■実際に大地震が起こることを想定し、安否確認のための人員の集計がどのような意味を持つのか、また災害時に必要な安否確認に関する情報は何か、どのように把握できるのか、どのように対応することが可能なかな等、整理しておくことが必要だった。	■自主防本部長を中心にスムーズな避難所開設・運営訓練ができた。 ■避難所開設訓練の中で、災害時に備えるための日常生活に生かすことのできる知識や様々な情報も得ることができ、参加者と指導者の対話で進行する有意義な時間もあつた。 ■避難所の収容人数は限りがある。想定人数とそれを超えた場合の対応を考えておく必要がある。	■自主防による丁寧な指導により充実した訓練を行うことができた。 ■実際に大地震が起こることを想定した有意義な訓練なので、より多くの区民に参加していただくための働きかけを工夫していくことが今後の課題である。また、都合により途中で帰る方もあつたが、できるだけ訓練工程を通して、じっくりと参加していただけるよう呼びかけることも必要であつた。
小町屋区	8:00 ～ 9:30	■アサフ電気前駐車場 ■至信館 ■心交館 ■北心館	167	①安否確認訓練 ②避難所開設訓練 ③本部・支部開設訓練 ④情報伝達訓練 ⑤消火訓練(消火栓・消火器) ⑥炊き出し訓練	■家族台帳(個人情報)は隣組長が見ることが出来るのですが、個人情報を誹謗中傷されたと苦情あり個人情報保護検討必要では。 ■市の駐車場をお借りするように申請提出し依頼したのですが、何台か駐車あり又訓練中にも侵入車あり。申請してあるので市役所内でも周知及び対応をお願いします。	■高齢者の隣組長が手順方法等理解されず出席せず安否確認出来ず時間がかかった。今後高齢者が増える中課題となる。 ■二次避難場所まで距離のある隣組長は徒歩報告のため時間がかかってしまった。隣組長からの報告様式2の合計欄に記入がない組があり、集計に時間を要した。 ■安否確認で不明が一人数いたが、緊急入院されていて確認に時間がかかった。実際のときにあり得る。 ■安否確認票を持参しない組長がいた。数量合計をしていない隣組も複数あり。実際のときにあり得る。	■特に問題なく実施できた。	■特に問題なし。 ■消防団及び防災リーダーの方々の方々の分かりやすい説明あり。
福岡区	7:00 ～ 11:30	■福寿荘	45	①安否確認訓練 ②避難所開設・運営訓練 ③避難誘導訓練 ④消火栓・水消火器使用訓練 ⑤心肺蘇生法訓練等(AED使用方法、止血方法含む) ⑥簡易トイレ設置訓練 ⑦警戒区域巡回訓練 ⑧備品点検		■自治組合により内容の理解の差が大きい。 ■無線機の定期的な使用訓練が必要。 ■無線機に頼らない情報伝達方法の検討(電波の到達範囲)。	■避難の開設・運営の基礎的な理解が不足。(区役員、自治組合役員) ■建物被災状況チェックシートの周知徹底 ■ファーストミッションボックス®の更新	■70代女性が屋外待機中に気分が悪くなる事案があつた。 【消火栓・水消火器使用訓練】 ■準備と調整の負担から実施を敬遠する傾向。 【簡易トイレ設置訓練】 ■有事の際に借用が可能か。また、スムーズな借用方法は。 【警戒区域巡回訓練】 ■大田切土地改良区、中田切水利組合との連携が必要。 ■一級二級河川、準用河川、その他水路に関する知識が不足。
市場割区	8:00 ～ 11:50	■放下小平いきいき交流センター	103	①安否確認訓練 ②避難所開設訓練 ③炊き出し訓練 ④消火器・消火栓取扱訓練 ⑤救護訓練(AED、担架) ⑥消火栓・ホース格納箱及び防災備品点検		■自主防災会本部への美里自治会からの連絡が所定時間内に着かず避難者支援拠点への報告が出来なかった。	■自主防災本部の避難所開設がマニュアルの未設置により十分出来なかった。 ■組織メンバーの主体的な行動により所期の目的は達成できた。	■放下小平自治会の主幹により準備運営が出来た。 ■市から支給されたアルファ米およびペットボトルを炊き出し訓練で利用できて有効であつた。 ■熱中症警戒アラートの発出の中の訓練で心配したが十分な水分補給により目的を達成できた。
上赤須区	8:00 ～ 9:30	■自瀧館 ■いきいき交流センター ■南の原集会所 ■赤須ヶ丘タウン防災公園	35	①安否確認訓練 ②避難所開設訓練 ③防災資機材の確認、発電機の試運転 ④炊き出し訓練 ⑤消火栓使用訓練	■自治会主体とした訓練を4会場で実施した。	■安否確認報告と避難所開設の手順が自治会によっては異なるところがあつたので手順の周知徹底が必要である。 ■安否確認後に避難所開設となるため、同じ避難所を使う自治会については、まとめて安否を確認した方がよいように思う。 ■全員無事が前提の訓練であつたが、不明者や建物に閉じ込められたなど異常事態を前提にした訓練も必要ではないか。	■避難所を開設時に建物の安全確認だが、訓練時はその認識が無い。 ■各避難所での組織図の役割分担が周知できていないところがあつた。改めて周知をお願いした。 ■消火栓の使い方(使うときの注意など)を消防団に教えてもらったことで、一般住民にも火事の備えを周知できた。 ■簡易トイレ、救急箱など必要ではないか	■避難所開設に対して、専門家によるアドバイスを受ける機会があると良い。 ■市から指定されている施設が、耐震性に問題がある、土砂崩れ危険区域にあるなど、避難施設として使用できないケースがある。災害の状況に関わらず使用可能な施設を準備する必要がある。或いは、災害共通に使用できる施設を指定すべきである。 ■消火栓の機能確認をしたところ、ホースが設置されていない箇所や栓が回らない、ホースの着脱がスムーズにできないなど不具合が多数あつた。修理と定期的な点検が必要。(消火栓3、9、4、8番は修理対象)
下平区	8:00 ～ 10:30	■一心館	30	①安否確認訓練 ②安否情報伝達訓練 ③下平自主防災会本部立上げ訓練 ④一心館避難所開設訓練 ⑤炊き出し訓練 ⑥簡易ベッド・ワンタッチパーテーション組立訓練 ⑦自主防災会情報伝達訓練	■昨年の状況が判らないが、様式1の世帯用家族台帳の更新保存が徹底成されておらず、昨年の家族台帳が所在不明の組が相当数有、今年度漸く徹底することが出来た。	■各自治組合・隣組での一次避難場所の確認については概ね良好。 ■区本部への安否確認の報告が完了したのは、8時45分(発災から約45分) ■報告完了後、直ちに連絡員2名で赤穂東小(避難者支援拠点)に安否確認情報を伝達完了するも、東小学校の体育館とあるが、看板失印等、受付の位置情報を誰が行っても明確な様にしておいてほしい。 又担当の受付が女性職員一人だけというのは、災害時の行動規範としても相応しくないのでは？	■発災後本部開設(一心館、看板、受付)時刻は8時10分 ■避難所施設の安全確認を行った。(ドアの開閉、屋根、電気水道 ガス等) ■受け入れ体制の確認 受付ー一心館玄関・多目的ホール、生活研修室への誘導 保存水等の配付 簡易ベッドの組み立て &ワンタッチパーテーションの組み立てを参加者全員で確認。使用までしてみる、寝心地が良く軽い割にはしっかりしている。パーテーションは女性や小さなお子様には必需品で大きさも必要最低限で好評だった。	■アルファ米を使った炊き出し訓練について、参加者全員で担当を決めスムーズに炊き出し訓練ができた。 ■アルファ米は、災害の規模により、少しお高いが「食タイプも必要かと思われる。訓練ではガス、水道問題なく使えるが、実際ガス、水道が使えない状況では対応が異なりそうで、相応の対処が必要。

区名	実施時間	主会場	参加人員	訓練内容	特記事項	安否確認訓練について	避難所開設訓練について	自主防災会訓練について
町一区	8:00 ～ 10:00	■武道館 ■倉田魚店南空地 ■高砂園 ■みゆき公園 ■赤須町交流センター 等	200	①安否確認訓練 ②無線通信訓練 ③自衛消防隊訓練 ④消火器訓練 ⑤炊き出し訓練 【本部】 ①本部開設訓練 ②区内情報集約	■炊出し訓練実践は、衛生部で実施 ■消火器訓練(1町内)は自主防災会で指導、自衛消防隊の消火栓訓練は、消防団指導のもと実施	■データ化した災害時家族台帳より出力した様式2～4の用紙により、世帯員数の人数確認はスムーズに実施できた。 ■様式2～4の運用に関して、控の必要性や報告後の用紙を戻すかについて意見交換を行った。様式2は隣組長へ返却、様式3,4は控を残す方向となった。 ■様式4は区長のみへの配布としたが、総務や会計など区の役員にも配布しておくとうい。 ■様式3,4は複数枚配布して控用にも使用できるようにする。 ■様式2は緊急時への対応として、名前のみの用紙を災害時協力可能な家庭へ配布しておけば良い。 ■一部の町内会長が行動を理解しておらず、確認に時間がかかってしまった。役員会や事前の会議で行動確認を徹底する。 ■4月の隣組長会議にて、災害時家族台帳の更新や災害時の行動について丁寧に説明を行うと、防災訓練前に被災しても対応が出来る。	■本部の設営が遅くなった。役員会や4月の隣組長会議で災害本部の設営や役割を熟知していただく。 ■一部の町内会長にビブスやヘルメットがなかった。次年度防災費用で町内会長とわかる字入りのビブスなどを整備する。	【消火器訓練】 ■レバーを握って水が出るときにホースが手から離れ水が飛散した。ホースはしっかり持つように指導した。 ■子ども訓練に参加したが、水を出しっぱなしにして水がすぐなくなってしまう。 ■当日避難拠点である武道館で剣道の大会が行われており、消火器訓練は少し離れた別の場所を借りての実施となった、貸し出しに配慮があってもよいのではないかと。 【炊き出し訓練】 ■お湯を沸かすのに 30 分、炊きあがるのに 15 分、バック詰めに 15 分で、9 時に配布となった。概ね順調な訓練であった。 ■防災訓練物品は、有効期限 1 年以上で引き渡してもらえば、市全体の備蓄量が倍増し、訓練で使用する量の調整も可能になる。 【消火栓訓練】 ■自衛消防団 20 名が参加、簡先に不具合が有り交換して訓練実施したが、訓練自体は順調であった。 ■不具合の簡先は修理、区内の他の簡先は至急確認を行う。
町二区	8:00 ～ 11:30	■協同館 ■八町内児童公園 ■八町内集会所	43	①安否確認訓練 ②消火栓使用放水訓練 ③発電機使用訓練、炊き出し訓練 ④消防本部職員による災害時対応等の講話	■毎年ふれあいセンター周辺にて自主防災訓練を行ってきたが、ふれあいセンターから遠い町内の参加者が少ないため、今年は8町内集会所周辺を会場にし訓練を行った。	■隣組長の中には安否確認の報告方法や重要性が伝わっておらず、報告に來ない、時間がかかる、集計がまとまらない、町内があった。 【町内会長からの意見】 ■区常会、及び各町内組長会、及び回覧文書にて、訓練要領を連絡したつもりであったが、隣組によっては 8:00 の訓練時に集合しない家庭があった。 ■高齢で難聴の方が防災無線放送が聞こえない、訓練に無関心、協力しない家庭があった。 ■防災無線による地震発生放送(8:00)の前に集まっている。 ■実際に地震が発生した場合、何を基準に一時避難場所へ集まり安否確認をするのか明確でない。家屋倒壊などの被害が発生した時か。	■未実施	■消防ホースを転がし伸ばすことなどやったことがなかったので良い経験だった。 ■大規模災害時、避難生活時に必要なこと、知恵など、マニュアルにない大切なことを知ることができ参考になった。
町三区	8:00 ～ 9:45	■飯坂保育園駐車場 ■泰成電気駐車場 ■伊藤電工駐車場 ■飯坂団地駐車場	394	①安否確認訓練 ②避難所開設段取り訓練 ③消火栓・消火器配置場所確認 ④初期消火訓練(水消火器・消火栓放水) ⑤炊き出し訓練(アルファ米)	■熱中症対策から時間をかけられなかった。 ■アルファ米、保存水は事前に隣組長に配布。 ■スムーズに進められ防災意識を高める良い機会となった。 ■市の広報(サイレン)が聞こえにくいとの苦情があった。 ■防災アドバイザー、消防団の協力を得た。	■自治組合長への報告場所を間違えた隣組長がいた。(1町内) ■事前に確認した世帯人数と当日報告にズレが生じた。(2町内) ■組長や家族全員不在時の点呼方法が決まっていない。(2町内) ■暑さのため二次避難所への参加は隣組長のみでもよかった。(2町内) ■各組がスムーズにできた。(3町内) ■隣組長からの報告がスムーズにできた。(中央町内)	■文書配布により皆さんに理解してもらえた。(1町内) ■避難所設営訓練をできたらしい。(2町内) ■二次避難所の事前準備をしておいたので短時間で開設できた。(中央町内)	■実際に発生したときのシミュレーションを行うことも必要と感じた。(1町内) ■アルファ米は簡単で美味しかったが、説明通りの調理法でも米の一部・具の一部に固いところがあった。(2町内) ■消火栓の開閉は力がある。年に一回は訓練が必要。(2町内) ■簡易トイレの使い方の指導をしてほしい。(2町内) ■毎年新しい訓練を取り入れてほしい。(2町内) ■消火栓器具ボックスの古くなったものを交換してほしい。(2町内) ■消火器・消火栓の取り扱いは分かりやすく説明してもらった。(3町内) ■消火器の使い方、放水の仕方について消防団、防災アドバイザー等の指導の下、多くの区民が体験できてよかった。(中央町内)
町四区	8:00 ～ 10:45	■駅北公園 ■やまびこ荘 ■共楽園プール跡地～看護大学体育館 ■北の原いきいき交流センター ■6町内集会所	462	【全町内】安否確認訓練 【1】我が家は無事です」カードの玄関提示、放水消火訓練、アルファ米炊き出し訓練 【3】資機材使用方法確認、非常用持出袋・防災ボトル展示、AED訓練、防災食作り・保存水試飲 【4、看大、上穂5合同】避難所開設訓練、ファーストミッションボックス訓練 【5】避難所開設訓練、防災倉庫備品確認、初期消火訓練 【6】独自訓練なし	【3】自主防災会役員全員と自治組合長、副自治組合長の参加で、町内の連携が強化できた。今回の訓練を防災だよりに載せ、9月中旬に3町内に全戸配布予定。不参加者への次年度参加の呼びかけも行う。 【5】本年度も5町内全員での二次避難場所への避難訓練はなし。	(※一部抜粋して記載) 【1】安否確認表に、あらかじめ世帯名・世帯人数を記入しておいたの で、隣組長の記入や集計が比較的短時間で出来て、2次避難場所への 集合も早かった。 【3】二次避難場所へ全員移動しての訓練に、3町内住民約170人中、 約60人が参加。昨年度から倍の参加となった。事前の参加呼びかけ が功を奏した。 【4、看大、上穂5合同】 集計完了までの所要時間は22分であり、全体的にスムーズな進行が 見られた。 【5】夏場の暑い中、高齢な組長もあり、徒歩で避難所まで安否報告を することは大変で時間もかかるので、時間短縮を目的に電話での初期 安否報告もありと思いました。	【3】3町内の二次避難場所は4区の避難場所でもあり、開設訓練は 区の役員の皆さんが行った。実際の開設時には自主防災組織 として参画する。 【4】みんなの広場に最初に来られた方々が、自主的に避難所開設 を始めてくださり、全体として非常にスムーズな流れで進行し た。 【5】今回の2次避難場所は「北の原いきいき交流センター」とし、 防災倉庫の備品確認及び発電機 2 台を稼働させ照明をつける 訓練を行いました。防災倉庫があること自体を知らなかった方も おり、倉庫の備品内容もふまえていただけて良かったです。 また避難所開設時、隣組長の活動内容を改めて説明し、自身の 役割を改めて認識してもらいました。	(※一部抜粋して記載) 【1】消火栓を使用した放水消火訓練は消防団の協力で、消火栓の構造、ホースの繋ぎ 方や合図、簡先の持ち方の説明後に、参加者による放水体験が出来て、有意義な訓 練だった。 【3】今年は興味をひく仕掛けや事前の声かけにより、昨年の倍以上の参加があつたこ とが評価できる。 【4、看大、上穂5合同】 ■上穂町区 5 町内＆看護大学との合同でファーストミッションボックス訓練を実施し た。今回は2回目の合同ファーストミッションボックス訓練だったため、前回の経験が活 かされ、よりスムーズかつ効果的に訓練を実施することができた。町四区四町内单独 でも、災害時の初動対応を強化するために、ファーストミッションボックスの体制づくりを 進めていきたい。 【5】消防団の方による使用方法の説明後に実際に水消火 器を使用しました。小さいお子さんも参加していただき良い経験になってくれたらと思い ます。
上穂町区	8:00 ～ 10:40	■三和森公園	40	①安否確認訓練 ②災害対策本部設置訓練 ③防災資機材取扱訓練(発電機・投光器) ④AED訓練 ⑤初期消火訓練 ⑥炊き出し訓練(アルファ米) ⑦情報伝達訓練 【5町内、看大、町4区4合同】 ⑧避難所開設・運営訓練(ファーストミッションボックス講習)	■県看護大学会場では、避難所開設訓練として「ファーストミッションボックス」を使ったシミュレーションを行った。	■一部の町内では集合場所の間違いがあったが、全体的にはスムーズに報告ができた。(5町内を含め) ■今後について、いつ災害が起こっても対応ができるように安否確認票の用紙は、隣組長、町内会長が常備しておく必要がある。 ■隣組長の安否確認票について、家族台帳に記載しているが、実際には介護施設に入所していたり、就学で他所に住んでいる人もいるので、安否確認票の表記を分かりやすく変えた方がいいと考える。	■今回、三和森会場の避難所開設訓練は行わなかった。三和森クラブ避難所開設のための「ファーストミッションボックス」の作成を行っていた。作成にあたり、日程等は別途検討する。今後は「ファーストミッションボックス」の指示のもとに避難所開設訓練を行いたい。 ■5町内は看護大学会場で、看護大学、町4区4町内と合同で避難所開設訓練として「ファーストミッションボックス」を使ったシミュレーションを行った。今回は2年目であり、参加者も慣れてきたよう で順調に出来た。	■AED訓練は時間の都合で端折って行ったが、けが人を発見してからの流れでもやっ てよかったのではないかと考えた。 ■どの訓練もできるだけ多くの上穂町区民の方々に実際にやってもらえるように工夫し ていきたい。 ■今年も三和森公園での訓練に一般区民の参加を呼び掛けたが思ったより参加者が 増えなかった。自主防災訓練の参加者を増やしていくが今後の課題である。 ■隣組に加入していない人の安否確認や避難所の対応も今までも課題になっていた。 継続的な課題である。
中沢区	8:00 ～ 11:00	■区内一円	84	①安否確認訓練 ②災害対策本部設置訓練 ③地区内消火栓点検(水出し確認) ④炊き出し訓練(アルファ米) ⑤救急救護訓練(AED使用) ⑥避難所開設訓練 ⑦可搬ポンプによる初期消火訓練 ⑧地区内消火設備・機材確認点検	■避難所開設訓練と地区内全消火栓水出し点検はしばらくの間実施していなかったため、今回実施。避難所開設訓練については今後内容を更に充実化する必要あり。消火栓点検は常会長と近隣の方を中心に実施いただき、火災発生時の対応に有効であった。	■訓練なので事前に安否報告書を作成していた自治組合があった。 訓練であっても出来る限り災害発生時を想定した対応をお願いしたい。 ■実際の災害時には無線などを活用したい。	■自主防災会の役員でさえも、中沢支所内の防災倉庫に何があるかも知らない人が多く、問題視されていた。本格的な訓練には程遠いものだったが、参加者の皆さんにとっては非常に有意義なものであったと思う。今後、さらなる充実化をはかりたい。 ■訓練内容としては、避難所簡易トイレ、トイレ用テント、プライベートルーム、ダンボールベッドの組立体験を指導者の指示のもと実施。設置は問題なくテキパキできた。もっと多くの人に体験いただきたい。 ■夏の体育館は暑い。避難所となる体育館等の空調は大きな課題である。	■AED訓練は時間をかけしっかり実施できた。誰でも一回訓練を受けえることが重要。 ■地区内全消火栓の水出し訓練は毎年実施必要と判断。今回点検での不具合報告はなかったが、用具・器具等の劣化確認できたことも成果であった。 ■今回の訓練は、自主防災会メンバーを中心に実施したが、一般の方も見学に来ており、常々防災に関心を持っておられる方も多くと認識。今後は区全体にPRし、参加いただけるようにしたい。 ■今回の反省会を関係者を集め11月に行う予定であり、課題を明確化し、今後に繋げたい。
東伊那区	7:30 ～ 11:30	■東伊那小学校体育館 ■各自治組合の訓練会場	191	①安否確認訓練 ②避難所開設訓練 ③炊き出し訓練(アルファ米) ④救護訓練		■各自治組合ともスムーズに実施できた。 ■集計表がもう少し簡素化できないか。	■各自治組合で計画を立てて訓練を行ったが、課題として各自治組合の訓練に統一性を持たせた方がよいのでは。 ■伊那自治組合では「夜間」を想定して開設訓練を行い、室内をあえて暗くしてファーストミッションボックスに従い訓練を実施し、それなりの成果があった。 ■自治組合の集会所等の避難場所にも長期滞在ができるような設備(布団等)が将来必要ではないか。	■今回は自主防災会の副本部長以上の役員については各自治組合の訓練に分散して参加してもらったが、よい刺激になった ■救護訓練については日赤の救護員と消防団救護隊の協力を得て、大変内容の濃い訓練が実施できた。救護隊は、体育館に避難してきたけが人の受傷部位をその場で決め、応急処置をしてもらった訓練を実施したが、一般の方も見学に来ており、問題なく救護できた。 ■来年度はより実践に即した訓練を行えるよう、連携を強化したい。 ■今回は携帯電話を使用せず、自治組合と本部の連絡はすべて無線を使用した が、特に問題はなかった。